

デザインコンセプト

通行空間としての歩道には景観舗装を設え、歩行者に河内木綿の記憶を呼び起こします。暗渠化した玉串川の上に生まれた新たな空間には滞在、遊歩、イベントの活用場所として計画し、河川を想像させる舗装模様により流れるような連続した空間づくりを行います。また、玉串川の川面に近づく親水空間や大型ポットによる桜並木の再生なども合わせ、滞在して安心でき歩いて楽しい多様な空間を実現します。

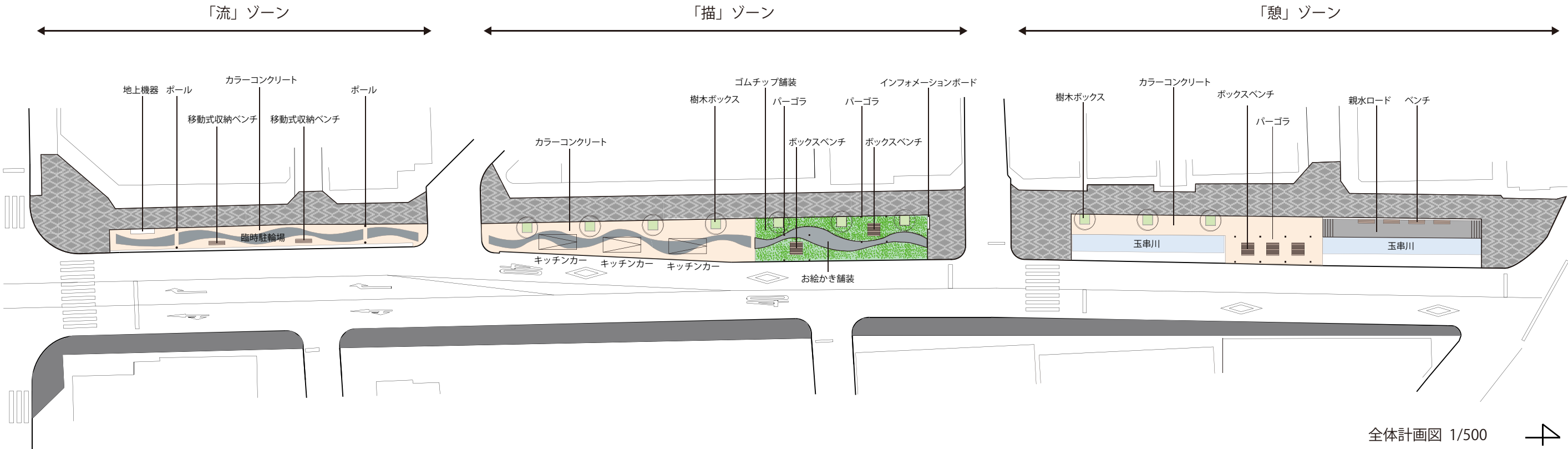
3つの特色あるゾーン

計画地を三つに分け、北側から「憩」ゾーン、「描」ゾーン、「流」ゾーンとして、特色ある三つのエリアとしました。

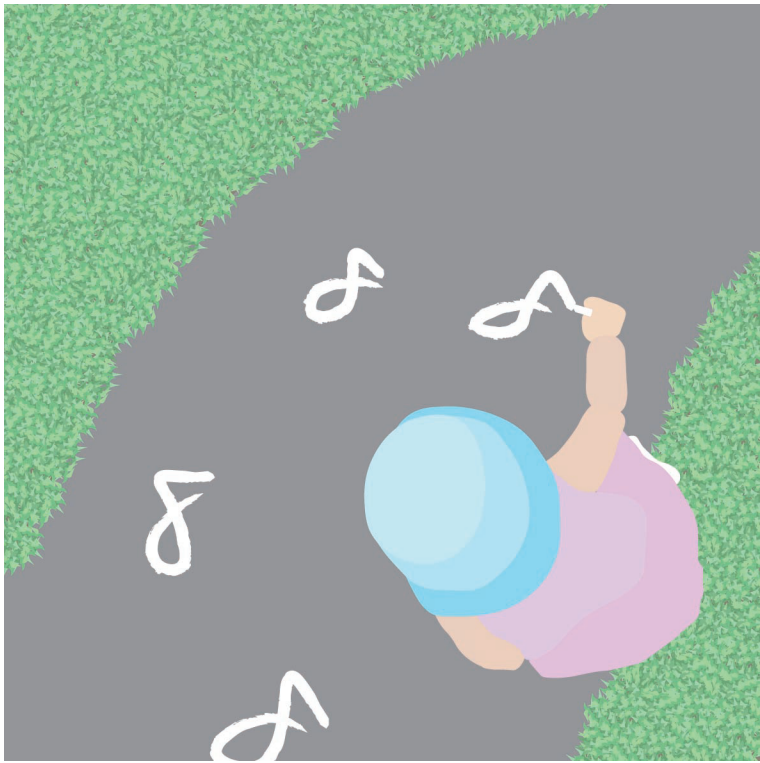
「憩」ゾーン：適度な日陰があり、ベンチに座ると、川の音を聞こえる親水空間。

「描」ゾーン：老若男女がお絵描きを楽しめる黒板広場があり、イベント等もできるわくわく空間。

「流」ゾーン：普段は広々とした歩道となり、イベント時には臨時駐輪場にできる遊歩空間。

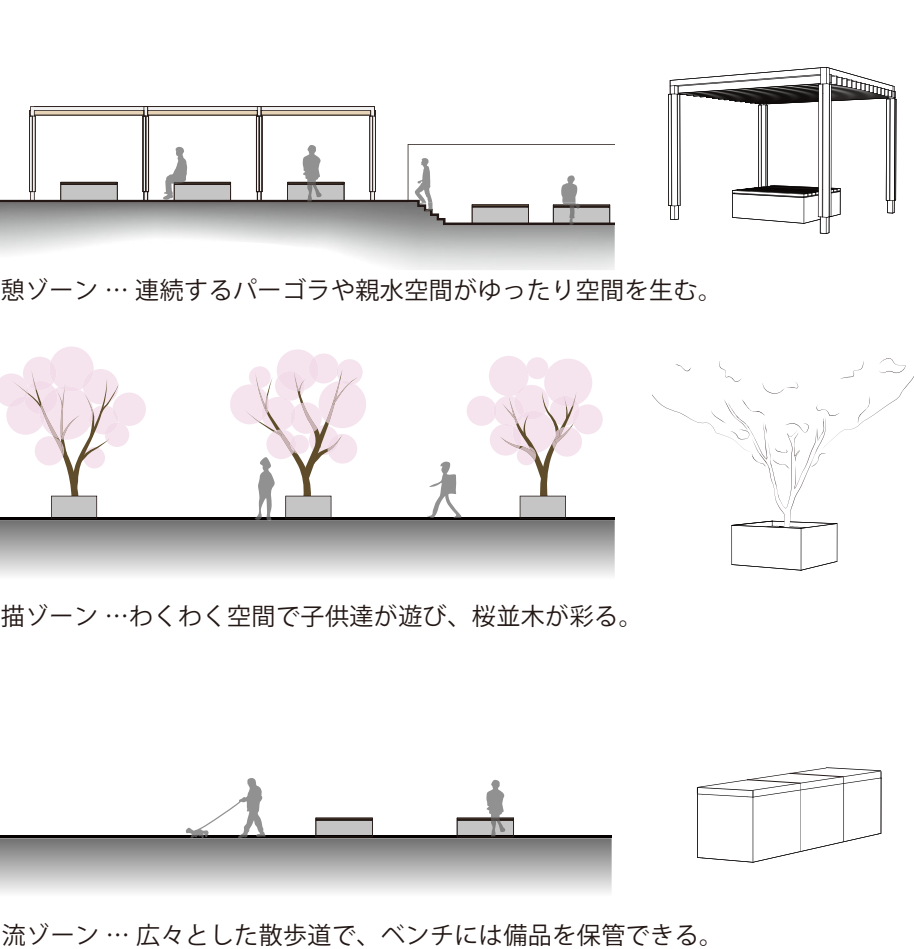


魚が手描きで生き生きする！？お絵かきの川(描ゾーン)

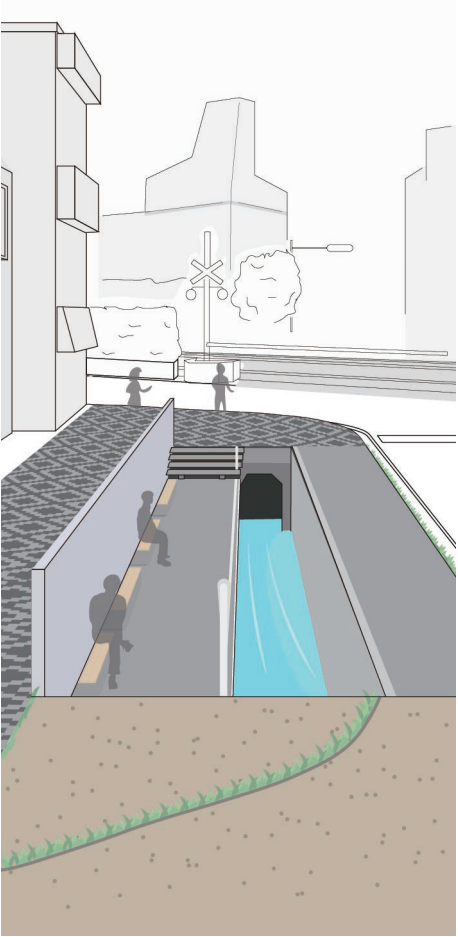


地面にお絵かきができます。子供たちが魚を描くと、地面の下に隠れた玉串川が生き生きと表現され、川が流れている記憶が遊びの中で共有されます。また、ゴムチップ舗装にすることで、怪我なく安全に遊ぶことができます。

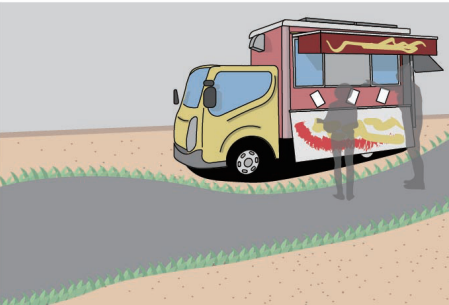
憩・描・流のそれぞれの空間イメージ



憩・描・流のそれぞれの使い方



憩ゾーンには、水に近づく親しむことができる親水空間を設けました。ルーバー屋根をもつパーゴラは日陰をつくり、夏場でも憩える空間となります。また、玉串川沿いで愛されてきた桜並木を再生することで、自然豊かな地域アイデンティティを感じさせる場となります。描ゾーンでは、日常時、イベント時どちらでも賑わいが生まれるよう、広場やパーゴラを配置します。余裕のある空間には、キッチンカーなども配置することができ、ソフト面でもさらにわくわく感を与えます。



親水空間の憩いやキッチンカーの賑わいなど、一連の遊歩道空間に実現します。